

道 徳 科 学 習 指 導 案

主題名「個性を尊重する社会」〔学指要領：C 公平、公正、社会正義〕

令和6年10月31日（木） 第6校時 談話ホール

I 主題設定の理由

1 価値観

「公平に接する」とは、自分と同様に他者も尊重し、誰に対しても分け隔てなく接するということである。人は他者との関わりにおいて生きるものであるため、よりよく生きたいという願いは、差別や偏見のない社会にしたいという思いにつながる。よりよい社会を実現するためには正義と公平さを重んじる精神が不可欠である。物事の是非を見極めて、誰に対しても公平に接し続けようとする心情や、自他の不公正に気付き、それを許さないという断固とした姿勢と、力を合わせて積極的に差別や偏見をなくそうという心情を育てることが大切である。

2 生徒観

（削除）

3 教材観 教材名「リスペクト アザース」

（出典：法務省人権擁護局・全国人権擁護委員連合会主催 第32回全国中学生人権作文コンテスト）

多様な人種の人々が暮らすアメリカのサンディエゴで「リスペクト アザース（ほかの人のことを尊重しなさい）」という言葉に親しんできた「僕」が、アメリカと日本の人間関係を比較しながら、人権尊重の社会をつくっていくために大切なことについて考えていくというあらすじである。

本教材は、アメリカのサンディエゴでの生活を通して「リスペクト アザース（ほかの人のことを尊重しなさい）」と習ってきた少年が、日本で他の人と大きく違わないように生活する姿や、相手の気持ちになれば絶対言えないようなひどい言葉を言い合っている姿を見て、個性を尊重して差別のない社会にするためにはどうしたらよいかについて考えた人権作文である。アメリカから帰ってきた「僕」の目から見た日本の友人関係について考えることで、当たり前の生活の中にある、相手を認められない心を見つめ直し、自分事として差別という問題について向き合うことができると考える。また、相手との個性や違い、相手のよさや努力を認めるといった公正、公平、社会正義について象徴的に表している「リスペクト アザース（ほかの人のことを尊重しなさい）」の意味を考えることで、誰とでも公平に接し、差別や偏見をなくそうとする心情が育つ教材である。

4 人権教育との関わり

中学校の段階では、多数の意見に同調したり傍観したりするだけで、制止することができないこともある。そのため、差別や偏見といった社会的な問題を見出した場合に、現状を諦めて見過ごすという消極的な立場ではなく、正義と公正を重んじる立場から、その解決に向けて協働して話し合い、それらを許さない態度を身に付けるための学習をすすめる必要がある。

本教材は、有色人種に対する差別や白人至上主義などの人権問題があるアメリカで育った「僕」が、表面上差別のない日本で感じた違和感から、幼い頃から根本的な考え方として触れてきた「リスペクト アザース」の大切さを考え直す。本時では、「リスペクト アザース」とはどういうことなのか、自分の考えをもち意見を交流させる。差別のない社会にするために大切なことを多面的・多角的に考えることは、自分の大切さや他の人の大切さを認め合いながら、身近な人権問題を解決しようとする態度につながるものである。相手との個性や違い、相手のよさや努力を認めるといった公正、公平、社会正義について象徴的に表している「リスペクト アザース（ほかの人のことを尊重しなさい）」の意味を考えることで、誰とでも公平に接し、差別や偏見をなくそうとする心情を育てたい。

Ⅱ 本時の学習

1 ねらい

「僕」が海外と日本との生活で感じた人権についての考え方の違いを基に、どうしたら差別や偏見がなくなるのか話し合うこと通して、差別や偏見等の課題を自分事として捉え、差別や偏見をなくそうとする心情を育てる。

2 人権教育の視点【人権教育で育てたい能力・態度】

○感性：誰しもが無意識のうちに差別意識や偏見をもっていることに気付く。

○判断力：誰しもが無意識のうちに差別意識や偏見をもっていることを踏まえ、どのような言動が差別や偏見にあたるのかを公正・公平に判断する。

3 展開

【★ICT 活用に関する事項】

主な学習活動（○発問 ◎中心発問 ◇補助発問） 予想される生徒の意識【S】	○指導上の留意点
1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。（10分） ○日本や世界にはどのような差別があるのだろう。 S：人種差別 S：女性差別 S：障害者差別 S：部落差別 <めあて> 差別や偏見に対して、どのような考え方もつことが大切だろう。	○生徒が疑問や問題意識をもっためあての設定になるように、世界で差別と戦ってきた人々（キング牧師、マンデラ、マララ）を紹介する。 ○本時のめあてに対する話し合いが深まるように、発問に対する意見を全体で共有し、人権に関する知的理解はできていることを称賛する。
2 教材文の範読を聞く。（5分） 3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。（25分） ○「僕」が感じた日本の様子は、私たちの身の回りでもないだろうか。 S：からかって誰かを傷つけるようなことを言っている。 S：「男だから」「女だから」と言ってしまうことがある。 ◎差別や偏見をなくすためにどうしたらよいのだろう。 S：互いの違いを認め合ったり、個性を尊重したりする。 S：差別意識や偏見は悪気のないところからつくられてしまっていると感じて、自分のできることから取り組む。 S：自分も差別意識や偏見をもっていることを自覚して、自分の言葉や行動を振り返ったり、直したりできるようにする。 4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてももう一度考える。（5分） S：大きな差別を一人の力でなくすことは難しいかもしれないが、自分にできることに取り組んでいくことが大切。	○生徒が差別や偏見に関する問題を「他人事」として捉えていることを認識できるように、適宜、人権に関する知的理解はできていることを確認する。 ○中心発問での話し合いを基に、差別や偏見に関する問題を自分事として捉えられるように、生徒の体験を共有したり、それについて再度話し合ったりする。【★共有】 ○多くの人が差別意識や偏見をもっていることに気付けるように、中心発問や補助発問での話し合いにおける意見を基に、どのような人を傷つけている可能性があるか考える。 ○中心発問について表面上の話し合いで終始しないように、なぜ多くの人が知的理解はできているのに、差別や偏見がなくなるのか問い返す。 ○本時の学習を通して、生徒たちの意識が変化したことを確認できるように、「他人事」と「自分事」の言葉を使って図示する。【★提示】
5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えの振り返りをする。（5分） <振り返り> S：差別や偏見に関わっていると感じていない人が多いから、どうしたら良いのかは知っているのに差別や偏見はなくなるのだと思った。差別や偏見をなくすことは難しいかもしれないが、自分も無意識のうちに人を傷つけているのかもしれないと考え、身近なことに取り組んで行くことが大切なのだと思う。	○本時の学習を振り返り、友達への接し方など今後の生活について考えられるようにする。

◆評価の視点

- 「僕」が海外と日本との生活で感じた人権についての考え方の違いを基に、どうしたら差別や偏見がなくなるのか話し合うこと通して、差別や偏見についての問題を自分事として捉え、普段の生活との関わりの中で考えを深めているか。
- 本時の振り返りをする場面で、差別や偏見のない社会をつくるためにはどうしたらよいかについて、公正、公平について多面的・多角的な見方へと発展しているか。